



本日はよくお参り下さいました

朝晩冷え込む季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。このひと月にあった久里浜周辺の出来事といえば、久里浜港に入港した帆船「日本丸」を一目見ようと駆けつけた人々で、ふ頭が大変賑わいました。そして中央で行われた「みこしパレード」には、天神社から山車(だし)と氏子会青年部のはやし方が参加しました。また、「くりはま花の国コスモスマつり」の最終日には、お花の無料摘み取りが行われ、可愛らしいコスモスを持って歩く方をたくさんお見かけしました。神社も七五三シーズン真っ盛りです。本来11月15日と定められていますが、近年は9月頃からお参りされる方もおられ、集中する日があまりないような気が致します。今年もこの期間の週末は、巫女さんとともにお迎えさせていただきます。一生の思い出に残る一日となれば幸いです。さて先日出かけた帰り夕立にあい、神社の目の前で信号待ちをしていたら、たまたま通りがかった若い女性が一本しか持っていない傘を差しだして下さいました。私が幼い子連れでいたからでしょう。傘は借りませんでした。そのお心遣いに、じんわりと温かい気持ちになりました。今月も皆さまが、幸多く充実した日々を過ごされますよう心よりお祈り申し上げます。権禰宜 道子



11月

1日・15日 月次祭(つきなみさい)皇室の永遠と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の安定と平和を祈ります。

3日 明治祭(文化の日)明治天皇のお誕生日。激動の明治時代、日本を近代国家として発展させることに尽力された明治天皇の大業を仰ぎ、皇室の弥栄(いやさか)と国家の繁栄を祈ります。明治維新の精神を思い起こして自覚を新たに、産業を興し平和を願うお祭りが全国の神社で行われます。



8日 立冬(りっとう)暦の上で冬が始まる日。

15日 七五三三歳(男女)と五歳(男児)と七歳(女児)のお祝い。晴着で神社にお参りし成長を感謝し今後の無事な成育を祈願します。

23日 新嘗祭(にいなめさい)春の祈年祭に對し秋の収穫祭です。「新嘗(にいなめ)」とは新穀を神様に備えることを意味します。宮中では23日より24日に亘り執り行われます。



23日 小雪(しょうせつ)陽ざしは弱まり、冷え込みが厳しくなる季節。木々の葉は落ち、平地にも初雪が舞い始める頃。

12月5日 久里浜天神社 酉の市

大鳥神社の神札が付いたカッコメ(初穂料1000円)、神棚用おふだ一式(初穂料3000円)の授与が始まります。熊手やだるまなど露店も出ます。夜九時頃迄行われますので皆様お誘いあわせの上お越し下さい。

天神さまの豆知識

く 神宮大麻(じんぐうたいま)とは、年末年始

神宮大麻(じんぐうたいま)とは、年末年始に氏神様から頂くおふだに含まれている伊勢の神宮のおふだのことです。▼たとえば氏神様が天照大御神を(祭神として)いても、神宮大麻は皇祖神であり、全国の総氏神様である神宮のおふだとして、氏神様のおふだと共にまつります。▼大麻は本来「おおぬさ」と読み、おはらいに用いられる用具のこと、この大麻が神宮大麻の由来です。実際明治以前は「おはらいさん」「おはらい大麻」と呼ばれ、御師(おんし)と呼ばれる神職によって全世帯の九割といわれる多くの家庭に頒布(はんぷ)されてきました。▼また、大麻の奉製には神宮が直接携わっています。毎年一月から奉製が始まり、四月中旬に刈りだされた(ご)用材は、五十鈴川畔の奉製所で乾燥されます。▼一方和紙は外宮近くにある明治以来の専属の製造所で、宮川の伏流水を使って厳しい検査のもとに漉かれています。作業に当たる五十数名の職員は、出勤する(と)まず身を清め白衣に着替えた後、そろって両宮を遥拝(ようはい)し作業を開始します。▼こうして奉製された大麻は、各県神社庁から各支部へ、各支部から各お社に頒布(はんぷ)され全国の(ご)家庭に届(と)くのです。

参考文献 『神社のいろは』神社本庁監修

お祭り歳時記

西の市(十一月五・十七・二十九日)十一月西の日に行われる大鳥神社の祭礼。初西を一の酉、次を二の酉、三番目を三の酉といいます。大鳥明神は大阪府堺市鳳町の大鳥神社が総本社で、もとは武運を守護する神として篤く信仰されています。三浦半島でも西の市が行われる神社があります(天神社は十二月五日)。酉の市では、だるまや縁起物をつけた熊手を販売する店や、多くの露店が並び、おまつりのような賑やかな雰囲気を楽しめることから、多くの人々で賑わいます。

今月の言葉

『一心の清きは

神のまします故なり

鏡の清く明らかなるが如し』

(林羅山「神道伝授」より)

心が清らかなのは、そこに神さまがおわすからである。人間の心は美しく磨かれた鏡と同様に清く明らかなものである。昔の鏡は円く薄い金属を丁寧に磨いて作られた。鏡はありのままを映す。映し出された人の心は磨きあげた鏡のごとく、本来は清く明らかなきれいだである。鏡がご神体になることもあるように、人の心には神さまが宿っている。汚れを放置した鏡が曇るように、人の心も汚れを清めず磨かなければ曇っていく。参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房新社